



皮膚科医長就任のご挨拶	中田 土起丈
中央手術室の紹介 ～より安全な手術のために～	岡田 貴枝
医療連携推進室の紹介 ～地域医療支援病院を目指していきます！～	斎藤 州
【院内サークル巡り】 書道同好会・院内展開催	光谷 俊幸
横浜市自衛消防隊操作法訓練会で2位になりました	小野寺 正則
地域合同防災訓練が行われました	小野寺 正則
第9回藤が丘地域フォーラムが開催されました	成田 紘子
診療統計	

## 皮膚科医長就任のご挨拶

藤が丘病院皮膚科

医長・准教授

なかだ ときお  
中田 土起丈

平成25年10月に藤が丘病院皮膚科医長に就任いたしました。当科では昨年4月、末木博彦先生が昭和大学医学部皮膚科学講座教授に就任後、約1年半にわたって診療科責任者が不在の状態が続いておりました。この期間に御迷惑をおかけした方々には、本紙面を借りてお詫び申し上げます。



当科では常勤医5名および非常勤医で診療にあたっております。皮膚疾患全般を対象としており、一般的な診療はもちろんですが、生検等で摘出した皮膚の病理組織学的・免疫組織学的検討、ナローバンドUVB全身照射装置を用いた乾癬や皮膚悪性リンパ腫への光線療法、重症乾癬に対する生物学的製剤療法などの専門的な診断・治療も行っております。加えて、難治性疣贅へのプレオマイシン局所療法や円形脱毛症を対象にした Squaric acid dibutylester (SADBE)外用療法など、通常の治療法では効果が乏しい患者さんを対象とした特殊な治療にも取り組んでまいりました。これからも難治性の疾患や症状に対して有効と考えられる治療法があれば、柔軟に取り入れていきたいと思っております。

加えて、今後は疾患の原因検索にも力を入れたいと考えております。私は1988年に昭和大学医学部皮膚科学

教室に入局した後、昭和大学病院や昭和大学横浜市北部病院での勤務、2年間のカリフォルニア大学留学を通じて、皮膚科領域の中でも接触皮膚炎、接触蕁麻疹などのアレルギー性皮膚疾患を専門としてまいりました。こうした疾患の患者さんは再び原因物質に触れると、一旦軽快した症状が再発してしまいます。したがって、治療はもちろんですが、原因を同定することが極めて重要になります。接触皮膚炎の場合は、疑わしい物質を背部に貼付し、2日後、3ないしは4日後、7日後の計3回の判定を行う、パッチテストと呼ばれる検査が有用です。当科でもスタンダードシリーズ(一般的なアレルゲン)や歯科金属シリーズのパッチテスト、接触蕁麻疹の患者さんに対するプリックテスト等を行える体制が整いましたので、原因物質の検索が必要と考えられる患者さんがいらっしゃいましたら、御紹介いただけますと幸いです。

また、急性期病院、臨床研修指定病院である当院の社会的責任を果たしていくためには、紹介/逆紹介を推進し、臨床研修医や医学部学生に対する教育を充実させていかなければなりません。そのためには、近隣の医院・病院の先生方、他の診療科の先生方の今まで以上の御協力が不可欠です。御信頼をいただけるような診療科になるべく、医局員と力を合わせて鋭意努力していく所存ですので、今後とも御指導・御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 中央手術室の紹介

## ～ より安全な手術のために ～

藤が丘病院中央手術室は、病院の3階に位置し同じフロアにER、ICU、救命センター、EIUがあり緊急性の高い場合でも、エレベーターを使わずに入室できるようになっています。看護師は計43名で構成されており、経験豊富な看護師から新人スタッフまで幅広いスタッフが在籍しています。

今年の春までは中央手術室と第二手術室に分かれていましたが、改修工事に伴い5月から10室の手術室が1つのフロアになりました。現在、移転から半年が経ち、移動動線がスムーズになり、円滑に手術室が運営されています。

当院は3次救急指定病院であることから緊急性の高い手術に24時間対応しています。交通外傷など、多数障害の手術を同時に行う手術も珍しくありません。それに対応すべくスタッフは、常に想定して行動しています。

手術室ではこの4年間で手術件数が大きく増加傾向にあり、その中でも患者さんに優しい低侵襲手術である鏡視下手術が激増しています。手術室には種々の医療器械があり、患者さんの安全を守るためにも正しい理解と取り扱いが必要です。高度で複雑な医療器機を多く扱うため、専門知識を持つ臨床工学技士が必ず常勤しています。手術室看護師は手術を受ける患者さんにより安全で質の高い手術の提供を行うために、毎月勉強会を開催し手術に関する知識と技術を

学んでいます。

病気は、患者さんや家族の日常生活を大きく変えるばかりでなく、患者さんを様々な不安と恐怖に陥れ、特に手術となると不安は一層募ります。そのために、患者さんの一番身近にいる看護師は、専門的な知識と技術をもって手術が安全に行われること、患者さんの安全安楽が十分に配慮された手術看護を提供できることを目標にスタッフ一同努めています。

手術は医師・麻酔医・看護師における協働作業であり、さらに患者を取り巻く各部門との連携、チーム医療を欠かすことはできません。今後も患者さんの安全を守り、目的の手術が円滑に遂行されるように努めていきたいと思っております。

(中央手術室師長 岡田 貴枝)



## 医療連携推進室の紹介

## ～ 地域医療支援病院を目指していきます！ ～

医療連携推進室は、藤が丘病院の使命である急性期医療、地域内の完結医療を实践するために、藤が丘病院と藤が丘リハビリテーション病院、地域医療機関や在宅医療施設等の機能を体系的に調整する部門として設置されました。

主な業務は、地域医療連携業務・退院支援業務・総合相談センター業務・入院ベッドコントロール業務の4つです。室長の高橋寛副院長を中心に医師2名(兼任2)、看護師2名(専任1、兼任1)、医療ソーシャルワーカー7名(専任7)、事務職員15名(専任13、兼任2)の総勢27名で構成されています。多職種で協働することにより、あらゆる相談やスムーズな地域連携支援(前方・後方)、効率的なベッドコントロールの実現に向け、日々取り組んでいます。

現在、藤が丘病院では地域と共に歩む病院として、また、地域の皆様から愛され、信頼を頂ける医療機関として地域医療支援病院\*を目指しています。地域医療機関の先生方におかれましては、より一層、紹介患者受入や逆紹介促進に日々精進してまいりますので、今後も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

\*地域医療支援病院

医療施設機能の体系化の一環として、紹介患者に対する医療提供、医療機器の共同利用等の実施を通じて、かかりつけ医等を支援し、効率的な医療提供体制の構築を図ることを目的としている。患者紹介率など一定の要件を満たす病院に対して都道府県知事が承認している。

(医事第二課長 斎藤 州)



医療連携推進室 地域医療連携担当

地域医療機関の先生方専用ダイヤル

TEL 045-974-6701(直通)

FAX 045-974-4325



## 【院内サークル巡り】

## 書道同好会・院内展開催

昭和大学書道同好会が、藤が丘病院開院時から存在する会であることをご存知でしょうか？最初は看護部が中心となって活動していたと聞いています。私が教えるようになって今年でちょうど20年になります。

書道同好会の母体は「墨光書道会」と、創立90周年になる「貞香会」という書道会で、漢字が主ななかでも「篆書」、「隸書」を書く書家が多く、日本の書道会でも一目置かれています。

月二回練習し、雑誌「墨光」に競書作品を提出しています。漢字のうち「楷書」はもちろん「行書」「草書」「隸書」「篆書」の

他「かな」「ペン字」など何でも自分の目標を見つけて練習できます。希望すれば多くの院外展にも出品できます。来年は「銀座画廊」で展覧会(墨光書展)を予定しています。みなさんも銀座展に出品してみませんか？「書」に興味のある方は是非入会してください。

さて、今年も院内展の時期となり、11月29日から約3週間、会員が合宿で仕上げた日頃の成果を病院入口の壁面に展示いたしました。入会して数ヶ月の会員の作品もありましたが、多くの患者さんから喜びの声・感謝の声を頂きました。

(臨床病理診断科教授 光谷 俊幸)



## 横浜市自衛消防隊操作法訓練会で2位になりました

10月24日(木)、横浜市消防局消防訓練センター(戸塚区深谷町)において横浜市自衛消防隊



操作法訓練会が開催されました。藤が丘病院は青葉区代表として屋内消火栓の部Ⅰ(女子の部)に出場しました。当該競技以外にも、屋内消火栓の部Ⅱ(男子の部)、小型ポンプの部の横浜市18区の各代表が一堂に会し、日頃の練習の成果を披露しました。

訓練会当日は、あいにく雨天模様の競技となりましたが、悪条件の中、昭和大学藤が丘病院自衛消防隊は、見事横浜市2位に入賞しました。これは、今まで出場してきた市大会の成績で最高位です。これまで夏の炎天下での苦しかった練習が全て報われるような好成績を収め、出場メンバーは満面の笑みで大会を終えることができました。

今回2位となったのは、メンバー自身の努力・実力もさることながら、自衛消防隊訓練会参加に際し、快く送り出された院内関係部署の皆様方のご協力によるものが大きかったと思います。また、訓練会に先立ち青葉消防署員の方々にご多忙にもかかわらず尽力いただいたことが、さらなる相乗効果を生み、今回の好成績となったものと思います。この場を借りて御礼申し上げます。

なお、今回の結果の如何に限らず、今後もご来院、ご入院中の患者さんに安心して治療に専念していただくための一助として、日々努力してまいります。

(管理第一課 小野寺 正則)



## 地域合同防災訓練が行われました



11月10日(日)、昭和大学藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院地域合同防災訓練が行

われました。

午前9時30分に地震が発生し、電気や通信が遮断されたという想定のもと、災害対策本部の立ち上げ、各治療部門の設置(テント設置)、患者受け入れ・患者トリアージなどの訓練を行いました。11時30分の治療終了後、炊き出しを行い、12時30分にはすべての訓練を終了しました。

今回も、両院スタッフ以外に青葉区役所、青葉警察署、青葉消防署、非常通信協力会(アマチュア無線)をはじめ、青葉四師会(青葉区医師会、青葉区歯科医師会、青葉区薬剤師会、柔道整復師会横浜西支部)に加えて、近隣住民の方々(梅が丘自治会、千草台自治会、藤が丘一丁目会、藤が丘二丁目(A)会、藤が丘二丁目(B)会)にも訓練模擬患者としてご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

今年も様々な反省点が出てきましたが、今後も引き続き防災訓練は実施していく予定です。そのために院内マニュアルを早急に改定し、有事の際の備えをさらに強化するよう計画中です。

(管理第一課 小野寺 正則)

## 第9回藤が丘地域フォーラムが開催されました

平成25年10月10日(木)当院にて第9回藤が丘地域連携フォーラムが開催され、地域医療機関65施設79名、当院より97名の合計176名が参加しました。当日は2題の講演があり活発な質疑がなされ、引き続き行われた懇親会では、情報交換とともに親睦を深めることができました。当フォーラムでは、各診療科医師をはじめ看護師、コメディカル、メディカルソーシャルワーカー、連携担当事務等、当院スタッフも多数参加しております。次回、第10回地域連携フォーラムは、来年1月9日(木)に開催を予定しております。多数の方

のご参加を心よりお待ちしております。

《講演》

1)「子宮頸がん予防ワクチンの副反応について ～被接種者等の不安への対応と副反応への対処～」

昭和大学藤が丘病院 産婦人科 教授 小川 公一

2)「IVRと新たな画像診断装置」

昭和大学藤が丘病院 放射線科 准教授 橋本 東児

(地域医療連携室 成田 紘子)

## 診療統計 2013年10月・11月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	10月	11月	10月	11月
外来患者数	33,844人(1301.7人)	30,978人(1346.9人)	5,116人(196.8人)	4,804人(208.9人)
入院患者数	15,488人(499.6人)	14,796人(493.2人)	5,711人(178.5人)	5,641人(188.0人)

2013年10月・11月( )内は1日

《編集後記》

年末です。それだというのに、春に読み始めた『アンナ・カレーニナ』は、まだようやく主人公アンナが登場したところです。でも、伸ばしてきた私の前髪は、随分な長さになりました。

日々は、変わっているようで変わらない。変わらないようで変わっている。こんなことを言いたくなる。それが年末なのです。 松尾 悠

《編集委員》

高橋 寛	佐々木 春明	水間 正澄
小岩 文彦	高橋 良昌	堤 博志
大塚 幸彦	吉原 利栄	辻本 さなえ
林 好彦	松尾 悠	飯田 八代枝
有本 由布子	高橋 良治	(順不同)